

演題5. わが国における舌癌剖検症例の検討
-1999年度の集計-

○佐藤 方信, 及川 優子

岩手医科大学歯学部口腔病理学講座

目的: わが国の舌癌剖検症例を集計し, 種々の観点から検討して, 舌癌の実体解明を試みる。

材料: 1999年にわが国で剖検され, 日本病理剖検輯報第42輯に収載された舌癌66症例である。

結果・考察: この年度の舌癌剖検症例は男性44症例, 女性22症例であった。組織学的には扁平上皮癌がほとんど(96.6%)で, 組織学的分化度別の症例数では, 高分化型が21症例, 中分化型が12症例, 低分化型が2症例であった。年代別の症例数では60歳代が23症例(34.8%)で, 50歳代, 70歳代, 80歳代がそれぞれ12症例(18.2%), 40歳代が6症例(9.1%), 20歳代が1症例(1.5%)であった。多重癌を除いた舌の扁平上皮癌症例のみ(男:31, 女:16)の平均年齢は男性が62.5歳, 女性が71.4歳で, 女性症例の方が高くなっていた。扁平上皮癌単独症例の平均年齢は高分化型は67.1歳, 中分化型は71.2歳, 低分化型は62.5歳であった。発生部位では舌側縁が最も多く(63.2%), 次いで舌後部であったが, 舌前部や舌下面に発生した症例はなかった。舌側縁症例の平均年齢は61.5歳で, 舌後部に発生した症例は71.9歳と高かった。また, 臨床科別の症例数と平均年齢では内科が8症例(73.6歳), 外科が5症例(66.4歳), 口腔外科が23症例(65.3歳), 耳鼻科が15症例(62.6歳), 頭頸科が4症例(62.0歳), 放射線科は4症例(60.8歳)であった。多重癌症例が18症例(27.3%)みられたが, これを出所別にみると, 外科が4症例, 口腔外科が3症例, 耳鼻科が2症例で, 内科, 神経内科, 呼吸器科, 化学療法科, 気管食道科, 造血管科, 循環器科が各々1例であった。重複の内訳では, 二重癌が11症例, 三重癌が3症例, 四重癌が3症例, 六重癌が1症例であった。死因では肺炎が13症例で最も多く, 敗血症が3症例, 心筋梗塞が2症例で, 気管支内出血, 出血, 頸動脈への腫瘍浸潤による出血, 播種性血管内凝固症候群, 頸動脈破裂, 左頸静脈~肺動脈血栓など出血によるものが各々1症例づつ認められた。